

校長室だより

令和8年4月24日（金）
第4号
十日町市立中条中学校校長室

ゴールをイメージする

校長室だより3号で、学習指導についての話をしました。その中の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組として、当校では「単元構想」を重視しています。新潟県の「学校教育」の中でも「児童生徒を主語として単元を構想する」とあります。当校の取組についてお話しします。

これまでの授業とこれからの授業

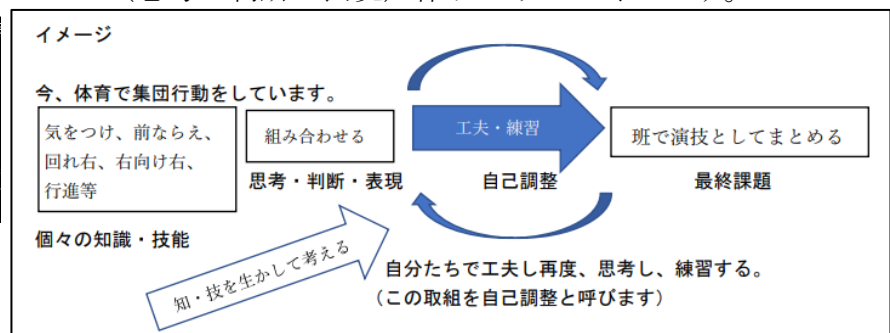
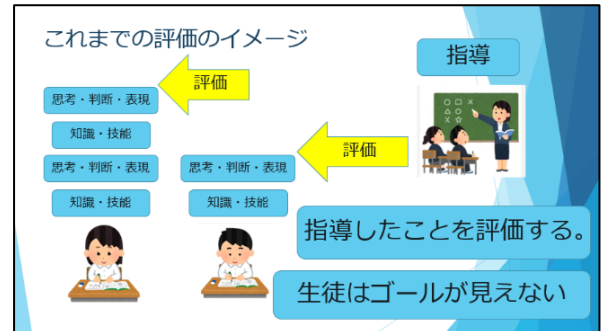
私も含め、一昔前の授業は、先生から教えられたことを聞き、ノートを取り、出された課題をこなしていく。こんなイメージでした。黙々とこなすことがある種の美德でした。そして教員は指導したことがどれだけ身に付いているかを評価してきたのです。生徒にとっては、この学習を通して目指す姿・ゴールが見えず、「生徒自身が何をどうしたらいいか、どう学んだらいいか分からないのではないか」という課題がありました。

その課題から、生徒が自ら学習に向かうことができるように、1人1台端末などのICTの活用やペアや小グループでの学び合いなど多様な学習形態が最近の主流になっています。

生徒が自ら学習に取り組み、自分の学習を振り返り、より良い学習方法を見付けて取り組む。これが「個別最適な学び」です。そして、友達や仲間と意見を出し合い、教え合い、考えを練り上げていく。これが「協働的な学び」です。

大切なことは、ゴールや目指す姿が、生徒、教師ともにより具体的でイメージしやすいもので、それに向かうためにどうしたらいいかを、教えてもらうだけでなく、自ら考えることが大切なのです。

一例を紹介します。保健体育ではこれから、集団行動をします。ゴールは「各グループが自分たちで工夫した演技をすること」です。そのために、行進や方向転換、列の増減などの知識・技能を、組み合わせ、アレンジして（思考・判断・表現）作り上げていくのです。



これまで当校の保健体育科の教員には日本体育大学の出身者がいたので、「日本体育大学の集団行動」の動画を最初に見せていました。それを見ると生徒はまさに目指すべきゴールがイメージできたようでした。※今年は日体大出身の教員がいないので別のアプローチかもしれません。日体の動画は You tube で検索すると見ることができます。大人が見ても感動します。

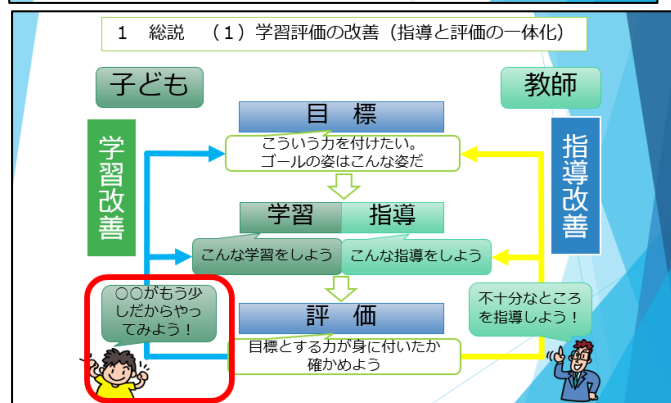
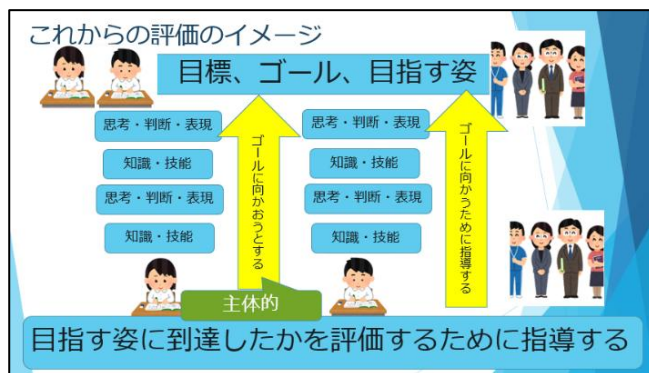
それ（ゴールイメージ）を思い浮かべながら、自分たちで創造的に、個々の技能（行進や方向転換、列の増減等）を組み合わせしていくのです。個々の技能を各自で高めていくことが「個別最適な学び」であり、グループで協働して組み合わせを考えたり、練習をしたりしながら、ゴールに向かうことが「協働的な学び」だと言えます。

当校では、一昨年から「ゴールを明確にした単元計画の作成」に取り組んでいます。ゴールは生活に密着し、生活の中で生かせる課題を設定することを目指します。ゴールに向かうためには、まずは、ベースとなる「基本的な知識・技能の習得」が欠かせません。その場面では繰り返しの学習であり、ドリルを徹底して行い、定着を目指します。

これまで、身に付けた知識・技能を再度表現したり、書いたりするいわゆるアウトプットまでが学習ととらえられていました。

これからの時代は予測不能だと言われ、多様化の時代でもあります。答えが必ずしも一つではないことがたくさんあります。ある課題が出された時に、一つの答えを求めるのではなく、その場で何が一番大切なのか、あるいはベターな解決方法（これを最善解と言います）は何かを、自分たちで考え出す力が求められています。

そのため身に付けた知識技能をどう生かし、生徒が自ら考え、試行錯誤し、最善解を求めることと、友達や仲間と意見を出し合い、練り上げていくことが大切なのです。



そして、一度考えたことを見直し、更によくなるためには、あるいはゴールに向かうためには、何をどう改善し、やり方を見直す力が大切です。それが「メタ認知」です。学校でも家庭でも、この「メタ認知」をどう育成していくかが大切だと考えています。上の図の太枠「〇〇がもう少しだからやってみよう。」この考え方がまさに「メタ認知」であり、今生徒に身に付けてほしい力です。

「メタ認知」とは

学習には、見る・聞く・覚える・理解する・考える・書くといった活動があります。これらを一段高いところからとらえて、たとえば「どういうふうに覚えると覚えやすいのか」「学習全体はどのように進んできたのか」などを自分のこれまでの様子を少し離れて振り返ったり評価したりすることが「メタ認知」です。

メタ認知の高い子は学力も高いと言われています。通知表の観点「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、正にメタ認知が高いかが表れます。自分が学習してきた状況を振り返り、客観的に自分には何が足りなかったのか、どうすれば力を付けられるかを考え、実践してみる力があるかどうかです。

まずは目標を設定し、その目標に近づくためには、どう取り組んだらいいか、何をしたらいいかを生徒自ら考えることが大切です。また、取組をしていく中で、少し立ち止まり、これでいいのか、違う方法はないかを考えて修正していく力も必要だと考えます。

学校でもメタ認知の能力を高める手立てを考えていきます。